

## 平成24年度第4回「市長とランチでトーク」

- 開催日 平成25年1月22日(火) 12:00~13:00
- 内容 市役所3階第2応接室にて市長と懇談
- 出席者 <参加者> 宇都宮共和大学シティライフ学部生徒 7名  
<市側> 市長

### ● 主な内容(抜粋)

#### 《車と公共交通について》

- 市長 : 車は便利なので手放せませんが、宇都宮の場合は偏り過ぎていて、車が中心であり、公共交通が他の都市と比較して充実していません。車社会も存続させていかなければなりません。車で通勤する人や車で仕事をする人もいるからです。車に乗る人達が走りやすい環境を作らなければ経済効果が上昇しません。それと併せて公共交通を発展させる二本立ての社会を作ろうとしています。
- 大学生 : 私の研究は観光を中心に考えている部分が多いので、仕事に関するデータが乏しいのですが、公共交通は観光よりも日常での利便性のほうが重視されると思っています。その点をこれから勉強できればと思います。
- 市長 : 若い人は、今、車にあまり乗りません。東京や大阪など公共交通が発達しているところは車がなくても生活出来ます。でも、車は日本の基幹産業なので、より多くの人に乘っていただくかなければなりません。
- 大学生 : 車が無ければ不便、実際、あっても不便なところがあります。
- 大学生 : 免許を持っている人はレンタカーなどでも出かけたところに出かけられます。私は最近、栃木県の国際交流機関から、ベトナム語の通訳を頼まれることがあり、その際、「車の運転が出来ますか」「車を持っていますか」と聞かれました。「車を持っていません」と言うと、「次の機会にお願いします」と言われました。
- 市長 : 交通弱者と呼ばれる方々や昔は車運転出来たという方々の交通手段を確保していかなければなりません。そのほか、「自転車が行きやすいまち」というのもまちの魅力の一つだと思います。
- 大学生 : 5キロ以内の範囲なら自転車は便利だと思います。
- 大学生 : コストがかからないという点では自転車は便利だと思います。パンクなどは簡単に修理できますが、車はそうはいきません。
- 大学生 : 交通に関しては、環境問題と一緒に考えることがとても大事なことだと思います。

#### 《地域のつながりについて》

- 大学生 : 最近、孤独死のニュースを目にしました。孤独死を減らすために、隣に住む人や周りにいる人とのコミュニティやコミュニケーションについて考えていければよいと思います。

市長 : 自治会という組織があります。宇都宮は人口約 51 万人で約 22 万世帯が住んでいます。宇都宮は 39 か所の地区に分かれており、39 の連合自治会があります。その中に自治会がいくつもあります。自治会は隣近所と希薄になっている関係をもう少し盛り上げていこうと活動しています。

高齢者や独り暮らしの方や障がい者の方々の安否確認をし始めたところ、「人に来られると困ります」という人達がありました。「それはありがたい、ぜひお願いします」となるところが、徐々に人間関係の希薄化が進んでしまい、世代も変り、「人と関わりを持つこと自体が不要です」と言う方もいます。これからの課題だと思います。

### 《高齢化と地域内交通》

市長 : 宇都宮以外の地区から通っている方から見て、宇都宮はどうですか。

大学生 : 私が住んでいる地域はバスが全然通っていません。また、バスが時間どおりに来ない時もあるので困ります。私は免許を持ってないので自転車で移動しますが、コンビニやスーパーに行くのに苦勞しています。病院に行く時などは公共交通をもっと整備してほしいと感じます。

市長 : 宇都宮では、ルートや運賃や車種などを地域の実情に合わせて整備しています。9 人乗りのジャンボタクシーが 1 日 8 本回っているところもあります。病院やスーパーなど、自分達が使うところを停留所を選んでいきます。もう一つはデマンド方式で、ユニバーサルデザインタクシーやセダン型タクシーを予約制で、ドアツードアで走らせています。普通のタクシーだと高いので行政が負担・支援をしています。市が負担する金額は、1 億円はかかりません。

皆さんも車の運転が出来るようになっても公共交通を使うようにしてください。そうすると公共交通自体もいつまでも生存できます。

大学生 : 私の地域では車に頼って生活しているので、公共交通が発達しないのですね。

市長 : そういう時代はいつまでも続きません。車の運転が出来なくなる方がどんどん増えてきます。宇都宮では 65 歳以上の方が平成 41 年には 3 人に 1 人になります。残りの 2 人が 1 人の 65 歳以上を支えるわけです。それはお世話をするだけではなく、例えば高齢者の医療費や年金を若い人が負担していくわけです。支える人が少なくなるので負担も増えます。そうならないためにも、寝たきりになることを防いでいきます。75 歳以上の後期高齢者の医療費は、病院にかかる本人は 1 割負担ですが、残りの 9 割のうちの 5 割は国が負担して、4 割は現役の皆さんが負担をしています。

### 《高齢者の健康づくり》

市長 : 皆さんは朝何時頃起きますか。6 時前に外に出てみると、歩いている人がとてもたくさんいます。ウォーキングが流行っていて、走っている人も増えてきました。そこで、公園に高齢者の向けの健康器具を設置しました。例えば、自転車こぎが出来る器具や腹筋を楽にできるような器具などです。年齢を重ねると体力を維持することが難しくなりますから、運動をすることで体力の衰えをゆるやかにしていき、幸せな高齢期を迎えていただけるよう公園を作っています。

大学生 : ジムはお金がかかるので、公園に高齢者用の器具を設置するのはいいですね。

市長 : ジムは車が乗れるうちはどんどん使ってもらったほうがいいです。ジムに車で行くことが出来なくなったら、身近のところで運動するのがいいでしょう。  
高齢者の方々には外出をしていただき、自分の足や公共交通を使って移動していただくことが必要です。

